

理事長あいさつ

センター発足10年を迎えて

理事長 船越 昇

新年あけましておめでとうございます。この1年も会員の皆様とご家族が健康で平和な日々を過ごされますよう祈っています。

平成25年は当センターが発足して10年になります。これまでの足跡を振り返り、これからのセンター運営を考えてみたいと思います。



平成15年3月27日午後、精華町地域福祉センター・かしのき苑のホールに100人を超す会員が集まって設立総会を開きました。設立時に会員登録した人は192人、初年度の契約金額は5087万円でした。あれから10年。平成24年度の会員数は1.8倍の350人になり、契約金額は2.5倍の1億2500万円を見込める中規模センターにまで成長しました。

10年間の足取りは総じて順調だったといえます。これは精華町をはじめとする関係機関や町内事業所、一般家庭、そして何よりも会員の理解と協力の賜物であると感謝しています。

物心両面にわたる精華町の支援は、センター成長の強い追い風になりました。スタートは近隣市町より多少遅れましたが、精華町都市緑化協会が手がけてきたかなりの仕事を移行していただくなどして、センターの発足に弾みをつけていただきました。「シルバーを育てる」という町の姿勢はその後の公共事業の発注などの面で支えていただきました。さらに、センター運営の要である事務局長の人材も、元町職員OBを継続してご配慮いただいています。

優れた資質を備えた高齢者がセンターに多数加入していただいていることも、成長を支えてきた大きな要因です。都市と農村が混在する地域の特性が多彩な会員構成になって現れ、通常業務以外の分野でも多彩な活動でセンター運営の柱になっていただいています。この10年間、大きな事故、事件がなかったことは何よりでした。今後も安全就業を徹底していただくようお願いします。

追い風に恵まれてきたセンターの足取りも、最近になって少し覚束なくなってきました。精華町からの風はまだ温かさが残っていますが、国からの風は、2年前に吹き荒れた「補助金3分の1削減」という突風を境に急速に弱まってきました。センターを見る社会の風も時折冷たさを混じるようになってきました。

2年前の国庫補助大幅削減の際には、会費値上げと経費節減などの自助努力で乗り切ってきました。これからは自助努力がますます重要になってきます。会員一人ひとりがセンターを守り育てるという気持ちを強めていただくよう願っています。堅実経営を貫き、15年目、20年目のセンター誕生日を祝いたいと希望しています。

事務局職員一同	専務理事	監事	監事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	副理事長	理事長		
	綿崎	長島	玉岡	和所	森島	岩里	松尾	福井	久村	羽場	篠原	井上	川野	船越	
	健	明	彰	樹	行	英	雄	夫	勝	男	彦	子	豊	昇	

謹んで新年のお慶びを申し上げます